

(一面最下段より)
 ②冷戦の他方の主役ソ連を筆頭とする過渡期国家群は、中国もソ連と同じ官僚制国家に転落するに機能している。それは、三〇年代とは異なった様相であり、これを(帝国主義の対立激化)↓帝国主義間戦争は不可避、というような単純帝国主義論(中核派など)として理解することはできない。他方、「後進国」、帝国主義諸国の激烈な経済的対立を、「われわれは、ソ連を擁護すること(第四インター)、中国を擁護すること(毛派)もナンセンスである」とする反革命同盟(対外進出なき国内均衡論)一国的国策論(カクマルなど)もしりぞかれねばならない。

激しい人民への攻撃 無力化を深める社共

七八年初頭、福田自民党政府は積年の念願、三里塚空港の開港を大号令し、史上空前の全国一万人の機動隊を現地に結集させ開港実現に自信満々であった。しかし、反対同盟を中心とする闘う人民は、三月六日第八ゲートを正面突破、管制塔を占拠し、福田のくろみをもごと粉砕した。

「減量経営」攻撃

アメリカの国際収支赤字とドル価値の下落は、迂余曲折があるにしても、長期的な趨勢である。米・カーター政権が、昨年十一月一日に発表した新総合防衛政策は、三〇〇億ドルをもつて為替市場へ介入しようというものが、ドル価値下落の一時の歯止めにはなるだろう。しかしそれは一時のことに過ぎず、ドル下落による円高基調は再び継続されるであろう。そしてこの円高基調は、日本経済にとって一般的デフレ圧力としてのみならず、輸出部門での国際競争力強化を口実とした合理化攻撃を不可避にするにちがいない。他部門でも、工場閉鎖、指名解雇を含む、合理化攻撃が、早くもみられるし、造船・鉄鋼・繊維等の構造不況業種を中心に「減量経営」が強化されるであろう。

政権のタライまわし

侵略・反革命拠点としての三里塚空港開港の出鼻をくじかれて、動転した福田は、一万数千の機動隊を現地に常駐させ、厳戒下の五月二十日、出直し開港を強行した。歴代の政権が積み残した独裁法改悪、日「韓」大陸棚国内法を成立させるとともに、帝国主義ブルジョア政府の面目をかけて、闘う人民抑圧の陣頭指揮を福田はやってのけたのだ。

かくして労働者人民の国家への反革命的統合をめざし、景気回復としてのブルジョアの経済再建も奏効のききまでこぎつけ、日中先進国首脳会議で「成果」をあげたはずの福田も、自民党総裁予備選で大平に完敗、本選なしで総裁に首相が決定した。労働者人民とは無縁のところで行われたこの交代劇は、まったくの茶番であるばかりでなく、たんなる「三角大福

財政であり、一般消費税の導入こそは、借金財政の穴埋めを労働者人民に強要するものにかならない。かかる国内政策と、直接の対応よりも、将来にわたる利益の観点にたつた対外政策は、一方で先進国首脳での共同調整、他方での中東・中国での市場進出をにらんだ「全方位外交」として展開されている。高まる日・米の対日非難、過大な対外赤字をかわす意味でも内需喚起のみならず、対アジア・中東への市場進出が必要となつていのである。なお、いままでもなく日中条約は、反ソ包圍の対外「政策」下で米帝・日帝接合の市場進出を計算に入れた日帝とのあいだで利害が一致した

元号法制化を許すな

養護学校義務化阻止

闘う全通下部労働者

このような企業内の「体質改善」たる労働者の犠牲おしつけを通じて、ブルジョアの体制維持・延命は、「一定の成果」をあげつつある。七七年(五二事務年度)法人税白書(国税庁)が、赤字申告の企業が全体の五割を越えたとしていたが、「体質改善」が進行した七八年九月中間決算では増収・増益も続出、減収・減益が基調となる戦後初の決算となつた。大企業八二〇社は、売上げが対前期比マイナス三・一%なのに経営利益は六・六%増、日立製作所は売上げ六・五%増、経常利益二・四%増、東芝はそれぞれ一七%の増、旭化成にいたって近を固める中国共産党と、他国へ先かけての市場進出を計算に入れた日帝とのあいだで利害が一致した

率プラス生活向上分二%、つまり六・九%と決定(十二月四日)。これは「下限」であり「ゆるやか」な目標、だといふ。なお、春闘闘争は「79国民春闘」と主張している。白書」を決定、欧米との実質賃金の比較だと日本の賃金は実質的に西独の六七%で、名目だけが西欧なみ賃金だから実質的西欧なみを主張している。

主戦(部落差別、「障害」者差別)攻撃をけられて。二月現在、就学児童による「障害」児の排除に対して、全国で二千人近い親が抵抗しているにもかかわらず、文部省は「義務化」を見切り発車し、うとしてい。見える、身辺の自立ができる等々により、盲・ろう・養の特殊学校、特殊学級、普通学級に区別し、「障害」児を地域(およびその子供集団)から隔離している現行の能力主義的教育体制をさらに強化するものにほかならない。

これは、ソ連スターリン主義の内政の現実分析を完全に怠っている旧式の親・スターリン主義にかならない。天皇制に死活の元号

三里塚闘争を大基軸に 日帝との全面的対決へ

統一要求なき春闘

首切り、配転、出向

七三年末の、石油・危機以降合理化は、ソフト設備処理・休止策、ハード人員削減・大量指名解雇(沖電気工業)策を駆使しての減量経営。体質改善へとつき進んでいる。構造不況業種・造船業における設備廃棄・休止・譲渡(三菱重工)、人員五〇〇〇人削減(石川島播磨重工業)、一時

里塚闘争への敵対があり、動労千葉の防衛は、単なる中核派防衛で決まらぬ。また、昨年全郵政との合併方針(二月)・春闘決戦スト脱走(四月)日早朝、ストを中止。しかもこれは「31時間分の時間外手当(平均三万四千二百円)支払」とひきかえになっているのだ。昨年度の電

が設置され、従来なら普通学級にかよはずの子供までがふるいわけられ始めているのだ。こうして「発達診断表」等により、子供達は「扱い安さ」のみを基準に差別され、三歳児健診・就学児健診をへて早期に、能力主義差別主義的教育体制に組み込ま

皇制そのものの存在表明である。昭和裕仁の余命わずかな現在、元号の元号の元号法制化を確立しておくことは、日帝の重要な課題なのである。

3・25 三里塚現地に 全国全人民の力を!

親スタの第四インター

第四インターは、「カンボジア人民のポルト体制打倒の闘いを支持し、その支援のために闘わなければならない」と、この「反ポルト」命「第五四号」でありベトナムとソ連のプロックは正しい、反ソの中国派は誤り、というものが

昨日、三里塚を対決基軸に日本帝国主義打倒の戦線を構築してきた我が革命派は、全戦線での闘いを、基軸としての三里塚闘争を、一層強力に突出させることを通して発展させるであろう。

「障害」者差別粉砕

こうして生産点での激しい攻撃と並行して、労働者人民は様々な排外主義(元号法制化等)・差別

「障害」者差別粉砕

こうして生産点での激しい攻撃と並行して、労働者人民は様々な排外主義(元号法制化等)・差別

「障害」者差別粉砕

こうして生産点での激しい攻撃と並行して、労働者人民は様々な排外主義(元号法制化等)・差別